

創立第四十年

昭和十三年

一 四月二十日對要空命ニ依リ防空監視隊編成変更セラレ當隊ヨリ
差出ハ監視隊本部要員(將校二下士官一上等兵二兵六)トナル

十二月一日對要空命ニ依リ監視隊本部業務ヲ長崎縣側ニ移管ス

十二月十日大陸命大陸指ニ依リ昨年八月ヨリ西部防衛司令官直轄部隊トシテ
派遣中ノ防空部隊ハ撤退ヲ命セラレ十二日將校以下一〇九名歸還ス

二 防空部隊要員交代

一月五日 派遣

砲兵准尉

黒岩 惠吉

歸還

同 中尉

八尋 健次

二月一日防空部隊派遣要員兵三十六名交代

四月八日

砲兵准尉

黒岩 惠吉

防空部隊派遣中ノ處歸還

五月一日防空部隊要員准尉以下三十三名交代

六月二十日

砲兵准尉

松村源市

防空部隊派遣中處歸還

七月一日

砲兵大尉

大坪四郎

同 少尉

松尾伯翁

防空部隊=派遣

七月十日

派遣 砲兵准尉

井上忠

歸還 同

齋藤義美

防空部隊要員交代

七月十五日

砲兵中尉

三原光雄

防空部隊派遣中、處歸還ニ命セラル

七月十一日 防空隊要員准尉以下二名交代(野崎上川久和岩本)

九月十一日 防空部隊派遣要員三十六名交代派遣

十月十八日 同

六十二名 交代派遣

二 戰時要員トシテ配屬轉屬セルモノ左ノ如シ

二月二十二日 砲兵伍長 西山 勲

独立臼砲第一大隊要員トシテ派遣中、處帰還ス

三月二十三日 砲兵大尉 大坪 四郎

独立臼砲第一大隊中隊長トシテ派遣中、處帰還

七月四日 高射砲第十六聯隊副官 砲兵大尉 前原 雪一

八月十二日 歩兵第四十八聯隊留守隊軍醫大尉 中尾 源造

九月十二日 輜重兵第十八聯隊 砲兵曹長 中村 三男

九月十七日 独立臼砲第一大隊 砲兵軍曹 西山 勲

九月十八日 防波給水部要員 主計伍長 比田 勝茂

十月十二日 輜重兵第十八聯隊 木工伍長 奥 貞雄

十一月九日 二十六師團兵器勤務隊火工曹長 山田 功

三 十二月一日 編制改正、為聯隊本部ニ曹長一増員

四 二月十三日若松市高塔山二十糧防空高射砲射擊中腕底藥莖
破裂爲當隊ヨリ左記ノ通死傷者ヲ出セリ

左記

重傷(左腕挫断) 砲兵大尉 大田貞一

重傷(右胸部穿透性音)
(音砲碎破片一劍) 砲兵准尉 黒岩惠吉

死亡 兵 一 (砲二内野友也)

重傷 兵 三 (砲二大東力、大浦忠二郎、谷本芳作)

輕傷 兵 二 (砲二今崎清巳、砲二北浦敏木)

五 二月十日部外團體貸渡用ノ歩兵銃及銃劍各一口時局ニ依リ

師團ニ返納ス

二月十七日中隊供用中ノ三十年式銃一口補給用トシテ返納其

代品トシテ教練用銃劍一口支給ヲ受ケ中隊ニ交付付ス

九月二十九日牽引自動貨車一日産自動貨車一教育訓練用ト

シテ特別支給ヲ受ク

十二月十三日 客年八月ヨリ八幡地區防空隊ニ供用シアリタル八八式七糎高射砲ニ門九〇式高射觀測具等受領ス

六 四月六日 兵營南側高地ヲ開拓シ八紘山ト命名

十二月十三日 高濱砲台ニ十五加固定砲床構築工事ヲ着手ス

七 十一月三十日 昭和十二年陸軍省令第五十八號ニ依リ在營延期中ノ昭和十年徵集兵除隊ス

昭和十三年陸軍省令第五十一號ニ依リ昭和十二年徵集兵ハ之ガ在營ヲ延期セラレ

昭和十三年度將校准士官轉出入一覽表

轉出

出

轉入

入

月日	轉出先交職官	氏名	月日	轉入前部隊	官	氏名
二一九	独混四旅砲中隊隊長	諫山政次	一三〇	聯隊附	裝工准尉	山口精太夫
〃	独歩六大隊附	三浦文雄	三一一	支那駐屯歩兵一聯隊附	中尉	林茂
三〃		原野明人	四一三	聯隊附	准尉	野崎為右門
三二五	歩留年隊附	山口精太夫	四一五	同	少尉	黒岩惠吉
五〃	工科學校	八尋健次	四二七	在郷	少尉	松尾伯翁
五二七	待命准尉	秋坂彌八	同	聯隊附	准尉	松村源市
六〃	野砲隊附	宮澤文雄	七〃	同	少尉	檜川準三
七〃	高射砲十聯隊副官	前原雪一	同	同	同	三宮志樹
七二五	関東軍司令部附	大坪四郎	同	同	同	三善禎章
八二二	歩四八留守隊附	中尾源造	七二五	重砲校	大尉	島崎正成

			三
			一
		野八留守隊	中隊長
			中尉
			三原光雄
			九
			一四
		在郷	鹿嶋要司
		聯隊附	大尉
		准尉	軍医
		北村育三	小笠原六男
			龜山寛光

陸軍

117

